

# 提携米通信

2018年8月号・黒瀬農舎



## 大雨災害と猛暑お見舞申し上げます。

先月の7月3日以降西日本各地を襲ったH30年7月豪雨災害は、死者が200名を超えるなどの記録的な大災害になったと報じられています。

皆様に被害はございませんでしたか。お見舞い申し上げます。

若し、家屋の流失はもとより、床上浸水などの被害を受けられた方がいらしたら、ご連絡をお願いします。

災害ボランティアなどのお手伝いにご参画いただいている方には、**災害後**

**の一年間、前年実績通りのお米を無料でお届け**します。(送料は、ご負担願います。)

また、以後も**定期利用者**に限り、同様に致しますので、今後不幸にも火事や天災に遭遇された場合は、遠慮なく再建にご活用ください。(冷害大凶作など、**当地の災害年は除きます。**)

ところで、お米作りなどの仕事をする私たちは、冷害、台風など自然の影響を常に受けます。そのお陰で無事に秋を迎えると、自然の恵みに感謝する気持ちが自然に高まります。

幸い今年の当地は、田植え時期は悪天候でしたが、その後はほぼ好天に恵まれイネは順調です。ただ、今年のマガモ君は元気過ぎてイネが部分的ですが、大きく傷められました。傷んだ稲の今後の回復を期待しているところです。

さて、西日本豪雨災害以降には、全国各地に酷暑が襲っています。マスコミ紙面には「殺人猛暑」或いは「獄暑」などの新語が踊ります。どうぞお気をつけてお過ごしください。

### ブナの救出作戦

毎年文化の日に植えているブナ。

植えて3、4年は、夏には雑草に覆われ、ブナは息耐えだね。6月までの下刈りが理想ですが、田植え、その後の管理と手が回りません。作業が一段落した7月中旬下刈りに山に集合です。

2018.7.17撮影

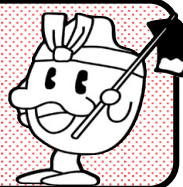
## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★我が農舎は、電話受付の専任スタッフがおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受けが多くありますが、ご了承ください。

★電話は、日祭日や、夜間もOKです。

★暑い時期は、ムシや味落ちが進みます。定期利用の方でお米が余った時は遠慮なく一時ハスのお電話をどうぞ。

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com)

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は**迷惑メールフォルダの確認**やメールの設定をご確認下さい。

★宅配便**運賃の値上がり**に伴い、**複数の運送会社**を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、**以前(前回)と運送会社が異なる**ことがあります。ご了承下さい。

## 今年もマガモ君たちには大変お世話になりました。



**除草の役目を終えたマガモ君たち**  
生まれて2週間目の100g程度の幼鳥は田圃で30日余り働いている間に10倍の1Kgになりました。明日は故郷の山形に凱旋します。  
(2018.7.7撮影)

今号はマガモ談義とします。今年のマガモ君たちは、例年に比べ、活発に活動してくれました。

お陰で、除草効果は期待以上の成果を上げましたが、イネが傷んだ程度は今年は、尋常ではありませんでした。

この原因は、放鳥後の好天に恵まれたことで、カモがグングンと成長したからです。

放鳥時のマガモ君は、生後10日から2週間で100g程度の幼鳥です、

約1ヶ月余りだけ放鳥しますが、終了時の身体はほぼ成鳥並で、10倍の1Kgまで太ります。

この時期に気温が低いと、カモは寒さに負けて、一部は死亡したり、成長が著しく遅れ、活動も弱く除草効果が発揮できません。

カモは動物ですが、作物の栽培と同じで、残念ながら、育てる技術よりも天候に左右される部分の方が大きいのです。

### マガモ除草の原理

今年のように、好天が続くとカモの成長は早く活動は超活発となり、除草効果は抜群ですが、カモの活動でイネは大きく傷みます。

ところで、カモ除草は、カモが雑草を食べることで「除草」が出来ると思っている人が多いと思いますが、それは10%以内。除草効果のほとんどは、雑草をカモが食べるよりも、カモが田圃を動き回ったり、土中の虫や貝などを探す活動で、発芽直後の雑草が水に浮かぶなど根付かなくなるからです。・・・田植え直後にチエーンを引き回すチエーン除草と同じです

従って、カモの放鳥は、田植えしたイネが根付いて、カモの活動でイネが傷まないまでに元気になったことを見定めることが、先ずは大事です。

放鳥が早すぎると、カモの活動で、苗が浮くなど傷みます。遅すぎると、雑草が成長し。カモの活動では駆除できない雑草が多く残ります。

また、放鳥するカモの大きさも、大事です。大きすぎると、稲を傷め、生まれて間のない幼鳥だと除草効果が劣ります。マガモの場合で当地の気候では、生まれて10~14日令が良さそうです。

イネの根付きを見極め、雑草の大きさや発生程度に応じて、放鳥時期、放鳥日令、放鳥羽数を勘案することが大事ですが、天候に大きく左右され見定めは中々難しいです。

#### 最後に、除草を終えたマガモ君たちは・・・。

我が農舎の場合は、マガモのヒナを納入してくれる鴨農場に無料で引き取って頂いています。そのカモ農場では、一部を翌年の採卵用の親鳥に使い、他の多くのマガモは11月頃まで飼育すると、気温が下がりオスは青首も明瞭になり脂が乗ってくるので、食鳥として利用します。

孵化したヒナは50g、10日余り飼育すると100g、それから1ヶ月余り田圃に放鳥した7月中旬には1Kg前後の成鳥になります。

その後11月までの100日余り飼育する間には、体重は500g程度しか増えません。この間は、高級な鶏用の高価な餌では、採算が取れないと、給食センターの残飯などを使われています。



**カモが取り残した雑草は・・・**  
カモの活動を乗り越え生き残り、大きくなった雑草は、もうマガモ君の力では無理です。  
長年お世話になっている近隣のパートの女性の皆さんにお願いします。2018.7.23撮影